

過疎地域における人口移動モチベーション調査

秋田高専 学生員 ○佐々木 勇幸

秋田高専 学生員 佐々木 磨樹

秋田高専 正 員 折田 仁典

1. はじめに

人口流出のパターンには大別して居住地を他地域に移すものとある期間のみ居住地を離れる出張者などがあるがどちらの形態をとるにしろ人口流出に悩む地域にとってはこの抑止は重要な課題である。過疎問題解決のためには種々の面からのアプローチが必要であり、例えば地域特性の把握、過疎化の進展度合の把握などがあげられ、これらは将来の施策実施に際して極めて有意なものとなるであろう。それと同時にその地域住民の意識および地域外流出者の意識の十分な把握なども重要である。すなわちこの地域住民の意識の把握は過疎問題を論ずる際の最も基礎的な資料を提供するものである。本論は上述のような認識のもとに秋田県において過疎化の進展度合の著しい地域を選定し調査解析を行なうことにより地域住民の人口移動の動機(モチベーション)のメカニズムを解明したものである。

2 調査及び解析方法

調査は秋田県において最も過疎化の著しい北秋田郡阿仁町と由利郡鳥海村の全世帯を対象地域に選び留置自記入法により行なった。調査の結果は (1) 転出動機の分析 (2) Uターン動機の分析 (3) 定住意識の分析 の3つに分類し各々の項目間の関係を把握するためにクロス集計により解析した。また阿仁町においては生活環境についての調査も行ない生活環境に対する満足度を数量化理論Ⅱ型により解析した。

3. 調査結果

3-1 転出動機の分析; 転出のきっかけとなる転出動機は「雇用機会の不足」が最も多く、次いで「進学のため」で鳥海村、阿仁町とも同様の傾向が見られた。また両地域とも東京をはじめとする関東地方が多く全体の約65%を占め、次いで東北地方が24%でそのうち約80%は秋田県である。これら転出者にUターンの意志の有無を質問したところ「ある」が「ない」を若干上回っていた。Uターンするための条件としては、就労機会の増大・バランスのとれた地域開発などを上げている。

3-2 Uターン動機の分析; Uターンの動機は「家の後を継ぐため」をはじめとする家族の事情によるものが多く、次いで「都市生活になじめなかったから」などとなっている。また「人間関係」「行政サービス」などについて出身地と転出先を比較してもらったところ「行政サービス」は転出先のほうが、「環境、居住性」は出身地のほうがよいと答え下人が多かった。

3-3 定住意識の分析; 居住理由は「家の後を継ぐため」と答え下人が鳥海村25%、阿仁町21%と最も多い。年齢別に見ると20才台から40才台までの年齢層にこの理由が多く、50才以上になると「恵まれた生活環境」「郷土に対する誇りと愛着心」が居住理由として多くなっており年齢によって若干異なっている。次に過去に地域外への転出を考えたことがあるかと質問したところ、鳥海村で46%阿仁町で33%の人が「ある」と答えており今後転出を決定する場合の理由としては「仕事に行きつづける場合」「交通機関のサービス低下」などを挙げている。数量化Ⅱ型により生活環境に対する満足度の要因分析を行なった計算結果については講演時発表する。

4. まとめ

人口移動モチベーションの分析から両地域では若干の差はあるものの人口流出の主原因は地域における「雇用の場の不足」であり、また現在Uターンを考えている人々も「雇用の場の不足」から帰郷(村)できない状態であることが判明した。また定住意識の分析からは地域に対して不安・不満をもちながら居住している人も多くいることがわかった。また一連の分析から住民の定住意識に及ぼす大きな要因はまず第一に定住した職場の確保による経済的な満足度であるといえる。